

一般財団法人ふくしま市町村支援機構 職場案内(2024年版) 令和6年9月18日改訂



主な業務
発注者支援
市町村職員研修
建設材料試験
ふくしま中町会館管理

はじめに

一般財団法人ふくしま市町村支援機構は、福島県と県内市町村の出捐により設立された県の外郭団体で、非営利型の一般財団法人です。高い技術力と豊富な経験を生かして、県や市町村が行う公共事業の執行を支援しており、地域社会の発展に貢献することを目指しています。

近年は自然災害が頻発、激甚化しており、全国的に防災・減災・国土強靱化への対応やインフラの老朽化対策が大きな課題となっています。こうした中、技術職員の不足が懸念される自治体もあることから、今後とも支援機構の果たす役割はますます重要になっていくものと考えられます。

支援機構では、技術力の向上を図るための人材育成や、ワークライフバランスを大切にしています。安心して働きやすい職場環境が整っており、多様なバックグラウンドを持った人が活躍しています。

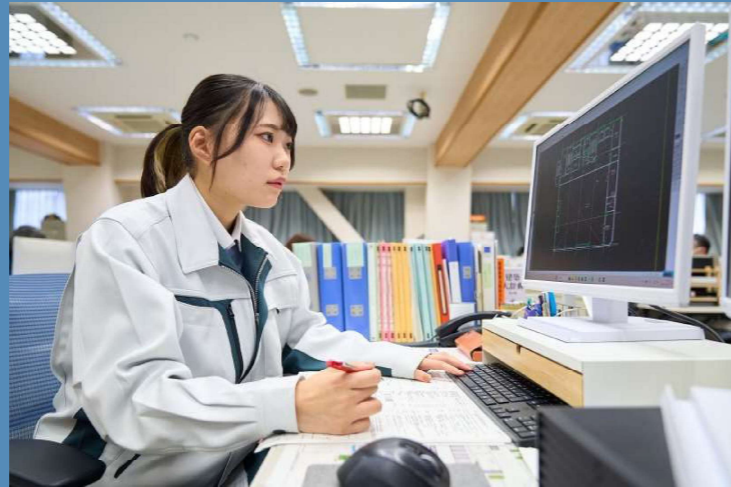
「市町村にとってかけがえのない存在であり続ける」共にこのビジョンを実現し、地域の発展を支える力としてあなたも活躍してみませんか。

1 支援機構の仕事

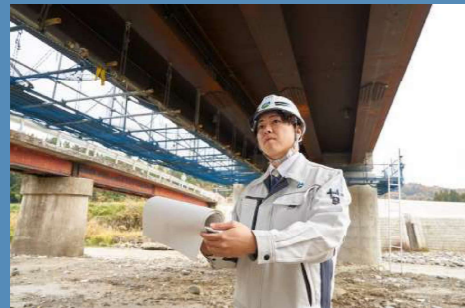
支援機構では、収益事業と公益事業を実施しており、事業収益の一部を公益事業の実施に充てています。収益事業と公益事業を行うことで、市町村の立場に立った効果的な事業の支援が可能になっています。

収益事業である発注者支援事業では、県や市町村からの受託により、土木・建築・設備・水道の公共事業に関する調査・設計・積算（工事費の算出）・工事管理業務等を行っています。

公益事業では、市町村の建設担当職員の相談に応じる建設相談事業や短期・長期研修事業のほか、県内唯一の建設材料の公的試験機関として各種試験を行っています。



設計・積算業務



工事管理業務



研修事業



建設材料試験

大変多くの市町村から厚い信頼をいただいております。県からは積算技術、特に橋梁やトンネルなどの特殊構造物の積算について非常に高い評価を得ています。

2 支援機構の魅力とは

◇ 高い技術力

支援機構では公共事業の積算に関して大変多くの実績があり、高い技術力を支えている基盤となっています。また、仕事に関連する資格を取得するための支援制度が充実しており、大変多くの有資格者を有しております。

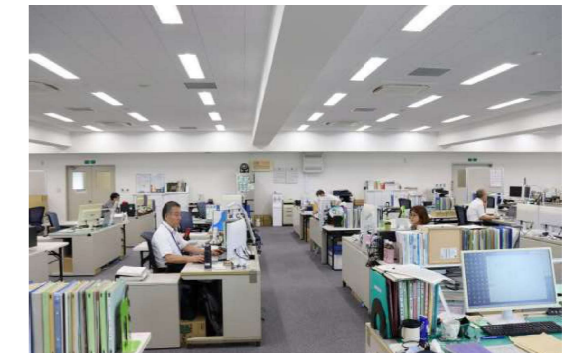
こうした環境の中で働くことで、将来高い技術力を備えた技術者として成長していくことが期待できます。



◇ 充実した給与制度と福利厚生

独自の給与体系と各種手当を備えており、賞与は業績に応じて支給されます。5日間の夏季休暇を始め、子育てや介護などの休暇制度、健康診断や予防接種の費用負担など、福利厚生も充実しています。

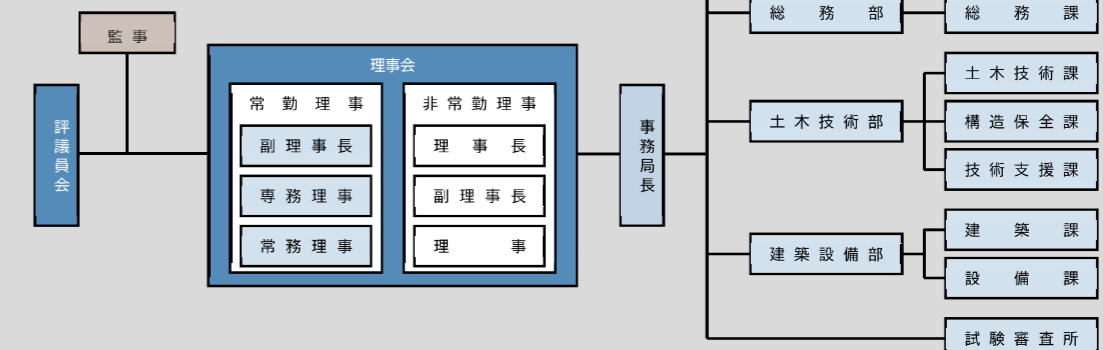
ワークライフバランスを実現するため、組織全体で超過勤務の削減に取り組んでおり、令和6年度から時差出勤制度を導入しました。



◇ 長期安定性

市町村や県が公共事業や公共施設の整備を行う上で、設計・積算業務や工事管理業務は不可欠なものであり、こうした分野で高い技術力を持ち、県から公共事業発注機関向け積算システムの使用が認められている機構の仕事は、長期的に安定性が高い仕事と考えられます。

組織図



土木分野



相馬市茄子小田橋災害復旧工事(設計・積算・工事管理)



飯館村堰堤橋点検業務



只見町塩ノ岐スノーシート点検業務



本宮市英国庭園イベント
広場整備工事(設計・積算・工事管理)



富岡町水管橋点検業務



福島県国道114号関場トンネル本体工事(積算・監督員支援)



飯館村長泥地区居住促進ゾーンの造成工事、集会施設等の整備工事(設計・積算・工事管理(監理))



南相馬市復興工業団地第2期造成工事(積算・工事管理)

本宮市ふれあい橋
修繕工事(設計・積算・工事管理)



双葉町消防団第1・
第2屯所新築工事(工
事監理・監督員支援)



建築分野



石川消防署庁舎(設計・積算・工事監理)



鏡石町健康福祉センター (基本計画・設計・積算・工事監理)

水道分野



鏡石町鏡石浄水場(積算・監督員支援)



双葉地方水道企業団小滝
平浄水場改修工事(設計・
積算・工事管理)



昭和村ラジオ難聴解消事業(積算・工事管理)



須賀川地方広域消防組
合非常用電源設備工事
(設計・積算・工事管理)



道路橋りょう整備工事(博士トンネル設備工事) (積算・工事管理)

設備分野

発注者支援事業 の実績例

心強い先輩方とやりがいのある仕事ができる



野崎技師（令和4年度採用）

土木職

■配属先 土木技術部 土木技術課

■現在の担当業務 積算業務

支援機構の業務は、生活の利便性の向上に寄与するものであり、人から感謝される仕事であるところにやりがいを感じたため入社しました。

先輩職員は技術力が高く、分からないことは聞けば教えていただけるので心強いです。また、志が高い方も多く、様々な資格を持っている方が沢山います。

福利厚生として、研修の旅費を負担してもらえるので、活用して1級土木施工管理技士の取得を目指していきたいと思っています。



多様な業務から豊富な経験と知識を得られる

岡崎技師（令和4年度採用）

建築職

■配属先 建築設備部 建築課

■現在の担当業務 設計、積算、工事監理業務

大学で学んだ建築の分野で、設計から工事監理まで様々な経験を積むことができると考え就職しました。

想像以上に覚えることが多く、まだまだ分からないことばかりで不安もありますが、先輩方が一つ一つ丁寧に教えてくれるため、少しずつできることが増えてきています。

自分なりに工夫して作業できたり、前回に比べ効率よくできたりすると自分の成長を感じることができます。

多種多様な業務があるため、覚えるべきことがたくさんあり大変ですが、その分達成感や身につくものは多く、豊富な経験と知識を得ることができます。ぜひ、会社見学やインターンシップなどに参加してみてください。



先 輩 職 員 へ の イ ン タ ビ ュ ー

地元福島のために働きたい



佐藤技師（令和4年度採用）

土木職

■配属先 土木技術部 土木技術課

■現在の担当業務 工事管理業務

東日本大震災、台風19号による水害を経験し、改めてインフラの大切さを実感しました。また、地元福島県で福島のために働きたいと思っていたので、支援機構を選択しました。

担当している工事管理業務は、朝から一日現場に行くこともありますが、休みはしっかり取れ、手当なども充実しています。

県内はどこでも行くので、福島県に詳しくなれます。「地元で働きたい」「福島のために働きたい」と考えているなら、ぜひ支援機構への就職をお勧めします。一緒に福島を元気にしていきましょう！



分からないことは先輩方が優しく丁寧に教えてくれる

伊藤技師（令和4年度採用）

設備職

■配属先 建築設備部 設備課

■現在の担当業務 設計、積算、工事管理業務

会社見学の際、職員の方々に丁寧に対応していただき、人柄に魅力を感じ、支援機構に入社しました。

大学で学んだ分野と違う業務に、最初は分からないことだらけで不安でしたが、先輩方は私が一人であると話しかけてくれて、不安に対する相談にも乗ってもらえたことで、徐々に職場や仕事に慣れることができました。

先輩方が理解できるまで優しく丁寧に教えてくれたおかげで、今は様々な業務に携わることができています。





実務経験を重ね、更に高い目標を目指したい

関根副主任技師（令和4年度採用）

- 配属先 土木技術部 土木技術課
- 現在の担当業務 橋梁設計、積算業務

前職では、建設コンサルタントで橋梁点検や補修設計のほか、福島県の復興プロジェクトのCM業務、発注者支援業務を担当していました。そうした経験を通じて、土木に関する専門知識や技術を更に高めたいという思いが強くなり、自治体が行う公共事業を支援しており、公共事業全体のプロセスに関わることができる支援機構の仕事に興味を感じて転職することにしました。

現在は、市町村の橋梁補修設計と積算を担当しています。これまで培った経験を生かせる仕事ですが、より専門的な知識が求められ苦労することもあります。

支援機構には、自治体を支援する組織として、専門知識や技術力を常に高めようとする姿勢があると感じています。人口減少の中で、市町村を支援する支援機構の役割はますます重要になっていくため、同じような志を持った人が来てくれるとうれしいですね。

支援機構に就職してから一級土木施工管理技士の資格を取得したので、今後は技術士やRCCMの資格取得にチャレンジしたいと思っています。



ワークライフバランスが大切

高橋副主任技師（令和5年度採用）

- 配属先 建築設備部 設備課
- 現在の担当業務 設計、積算、工事管理業務

前職では、空調・換気から給排水まで、様々な機械設備の施工管理を8年間行ってきましたが、家族が増えたことがきっかけで、ワークライフバランスを重視した生活へ転換したいと思い支援機構に転職しました。

現在は設備課に配属され、機械設備の設計業務を担当しています。ここに来てからは、仕事とプライベートのメリハリをつけることができ、家族と過ごす時間が増えました。職場の雰囲気も良く、福利厚生も充実しているので非常に満足しています。

県外の出身なので地名を言われてもピンとこない時がありますが、現場へ出向く業務があれば積極的に同行し、地図と地名を一致できるよう勉強しています。現場一筋だったので、デスクワークが多い環境に戸惑うこともありますが、これまでに培った知識や経験を生かしていきたいと思っています。

一級管工事施工管理技士の資格は取得しているので、今後は実務経験を積みながら、新たな資格に挑戦したいですね。

3 求められる職員像

支援機構では、常に県や市町村の信頼に応える組織であり続けたいと考えています。職員一人一人が信頼される職員、信頼に応えられる職員であることが、組織としての信頼を高めていくことにつながります。そのため、次のような職員像が求められています。

- 自分で考え、行動できる人
- 常に知識や技術を高めようとする向上心のある人
- コンプライアンスへの意識が高く、誠実な人
- 周囲とうまくやっていける協調性のある人



採用担当役員からのメッセージ

伊藤専務理事

■ リーダーになってほしい

仕事には一定のスキルが必要です。しかし、仕事に真面目に取り組んでいけば、スキル面でそれほど大きな差が出るとは思えません。大きな差がつくのは、「人間性」というか「人間力」といったものではないでしょうか。「人に対していつも心を開き受け入れられる人」「自分に謙虚な人」。そのような人こそ、周りの人を惹きつけ、組織をまとめ上げることのできる「リーダー」ではないかと思います。若い皆さんには、技術やスキルとともに、「人間力」を磨いて、将来職場のリーダーになって欲しいと思います。



■ 資格取得は自己実現の目標

大学を卒業したからといって勉強は終わりではありません。プロ野球選手でもドラフト1位で入団してからの努力はそれまで以上で、引退するまで続けます。皆さんも退職するまで勉強し続けることを心掛けてください。資格取得という「自分の目標」へのサポートを支援機構が全力で行います。

法人概要

名称 一般財団法人ふくしま市町村支援機構

所在地 本部 福島市中町7番17号
試験審査所 郡山市富田東二丁目245番地

設立年月日 昭和53年4月1日

出捐金 182,000千円(福島県及び県内市町村)

理事長 遠藤 雄幸 (福島県川内村長)

職員数 92名(本部83名、試験審査所9名)

事業内容 県及び市町村等の公共事業に関する発注者支援
及び公益事業など

経常収益 約18億7千万円(令和4年度)

沿革

1978年(昭和53年)4月 財団法人福島県建設技術センター開設(福島市荒町)

同年10月 一級建築士事務所登録

1987年(昭和62年)9月 現在地(福島市中町)に事務所移転

1999年(平成11年)4月 試験研究所を郡山市富田に開設

2008年(平成20年)1月 組織名称を財団法人ふくしま市町村建設支援機構に変更
同年8月 JNL A登録試験所(試験審査所)

2012年(平成24年)6月 一般財団法人ふくしま市町村支援機構に移行

2017年(平成29年)3月 測量業者登録

基本データ

1 職員

89人 事務24人、技術65人
うち正規職員66人(平均年齢47.6歳)
※令和6年6月1日現在

2 平均勤続年数

18.7年 ※令和5年度、正規職員

3 超過勤務時間

月平均 **13時間/人** ※令和5年度、正規職員

4 有給休暇取得日数

年平均 **13.2日/人** ※令和5年度

5 資格取得制度利用者数

延べ **29人/年** ※令和5年度

6 近年の採用実績

新卒技術 **3人**、既卒技術 **2人**
※令和5年度

7 直近3年の新卒者等の離職者 1人

4 待遇・各種制度

- 勤務時間 月～金曜日の午前8時30分から午後5時30分まで、完全週休2日制
時差出勤制度あり
- 初任給 大卒(技術職) 207,200円
の基準 大学院卒(技術職) 218,400円
- 手当等 扶養、住居、通勤、超過勤務、災害応急作業、資格手当
- 賞与 基本賞与は6月及び12月、また、年間の経営収支状況を判断して、業績賞与が3月、6月及び12月に支給されます。
- 休暇 年20日の年次有給休暇のほか、夏季、結婚、産前産後、育児、子育て、介護、病気などを事由とする休暇や、育児及び介護休業制度があります。
- 福利厚生 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険に加入するほか、福利厚生制度が充実しており、長く安心して働くことができる環境が整っています。
・定期健康診断、人間ドック、インフルエンザ予防接種の助成
・新卒採用職員に対する支度金の支給制度
・各種資格試験に要する費用負担制度、資格取得報奨金
・結婚・出産・入学祝金等の支給
・リフレッシュ活動助成金
・職員親睦会 など
- 研修等 一般研修 新規採用職員研修(公益財団法人ふくしま自治研修センターの研修に参加)、階層別研修など
専門研修 外部研修、OJT(組織内研修) など

働き方改革の取組

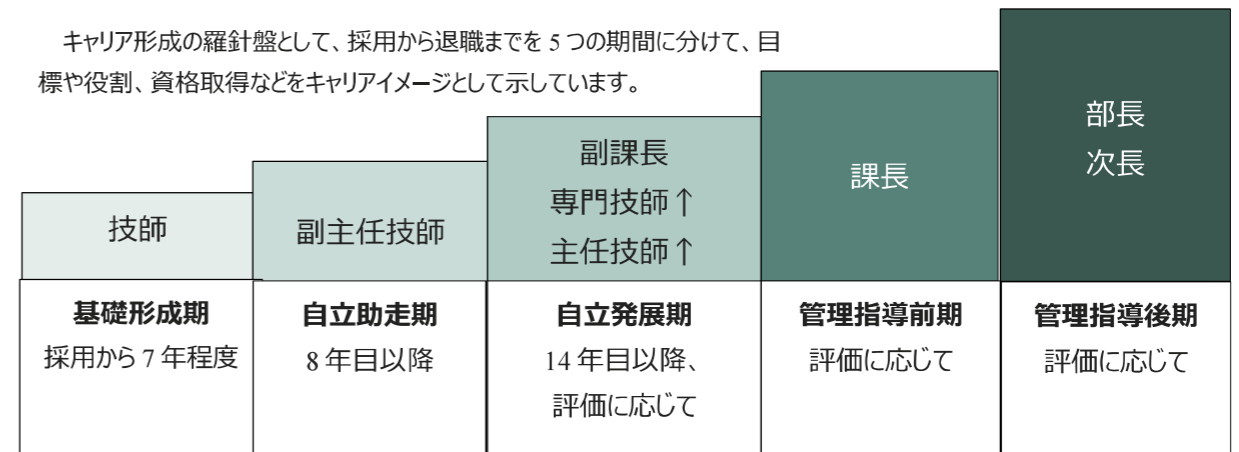
個々の事情に応じた柔軟な働き方の実現を通じて、職員の心身の負担軽減と業務能率の向上を図るため、育児、介護、通院、遠距離通勤、資格取得、母性健康管理などの理由で一定の要件に該当する場合は、時差出勤が可能です。



【利用者の声】 自家用車とJRを使って遠距離通勤をしています。時差出勤制度を利用して出勤時間を8:30から9:00へ変更できるようになったので、冬期間の交通渋滞やラッシュアワーの混雑を避けることができ、通勤のストレスが軽減されとても助かっています。

キャリアイメージ

キャリア形成の羅針盤として、採用から退職までを5つの期間に分けて、目標や役割、資格取得などをキャリアイメージとして示しています。





本部 〒960-8043 福島市中町7番17号（ふくしま中町会館）



試験審査所 〒963-8047 郡山市富田東二丁目245番地

問い合わせ先

一般財団法人ふくしま市町村支援機構 総務課

住所 〒960-8043 福島市中町7番17号

電話 024-522-5123 FAX 024-522-3631 E-mail info2@fctc.or.jp